明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可 （毎日刊行） 日曜及祭日の翌日休刊 明治四十二年四月一日 （木曜日） 第七十二號 （一）

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

京城居留民團公文

京城居留民團告示第四號明治四十一年度京城居留民團歳入出更正豫算表（續）

歳出臨時部

第三款 土木費
既定豫算額金二千四百六十圓十錢
更正豫算額金二千四百十三圓十九錢
第一項 道路橋梁費
既定豫算額金二千四百六十圓十錢
更正豫算額金二千四百十三圓十九錢
第一目 道路修繕費
既定豫算額金二千四百六十圓十錢
更正豫算額金二千四百十三圓十九錢
第四款 教育費
既定豫算額金四万四千四百六十二圓八十錢
更正豫算額金四萬二千九百三十圓六錢
第一項 雜給
既定豫算額金七百八十圓
更正豫算額金五百六十八圓五十錢
第一目 工事監督給
既定豫算額金七百八十圓
更正豫算額金五百六十八圓五十錢
第二項 小學校費
既定豫算額金三万五千九百八十二圓八十錢
更正豫算額金三萬四千七百七十七圓三十六錢
第一目 校舍新築費
既定豫算額金三萬八十五圓
更正豫算額金三萬六千九百七十三圓卅五錢
第二目 假校舍建築費
既定豫算額金四千六百三十圓
更正豫算額金四千五百五十四圓
第三目 雜費
既定豫算額金三百五十圓
更正豫算額金三百三十二圓二十一錢
第三項 高等女學校費
既定豫算額金七千七百五圓
更正豫算額金七千五百八十四圓廿錢
第一目 校舍新築費
既定豫算額金七千四百五十五圓
更正豫算額金七千三百三十四圓二十錢
第五款 火葬場費
既定豫算額金八百圓
更正豫算額金三百四十七圓五十錢
第一項 火葬場改築費
既定豫算額金八百圓
更正豫算額金三百四十七圓十五錢
第一目 火葬場改築費
既定豫算額金八百圓
更正豫算額金三百四十七圓五十錢
第七款 給水費
既定豫算額金五百圓
更正豫算額金四百三十二圓六十二錢
第一項 水道費
既定豫算額金五百圓
更正豫算額金四百三十二圓六十二錢
第一目 水道鐵管引込費
既定豫算額金五百圓
更正豫算額金四百三十二圓六十二錢
第八款 特別會計補給費
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金七千八百四十七圓五十錢
第一項 特別會計補給費
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金七千八百四十七圓五十錢
第一目 特別會計補給費
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金七千八百四十七圓五十錢
小計 既定豫算額金七萬八千九十四圓九十錢
更正豫算額金八萬二千六百卅七圓八十七錢
合計 既定豫算額金二十一萬三百十三圓四錢
更正豫算額金二十一萬二百三十三圓四錢

明治四十一年度京城居留民團特別會計漢城病院歳入出追加更正豫算表

歳入經常部

第一款 漢城病院收入
既定豫算額金六萬四千九百十一圓八十三錢
更正豫算額金五萬七千六十四圓卅三錢
第一項 藥價及材料費收入
既定豫算額金三萬千九百卅七圓五十錢
更正豫算額金二萬七千七百四十圓
第一目 藥價及材料費收入
既定豫算額金三萬千九百卅七圓五十錢
更正豫算額金二万七千七百四十圓
既定豫算額金二万四千九百八十四圓廿五錢
第三項 入院料及賄料收入
更正豫算額金二萬千三百卅四圓廿五錢
既定豫算額金二萬四千九十圓
第一目 患者入院料收入
更正豫算額金二万四百四十圓
小計 既定豫算額金七万二千六十七圓五十八錢
更正豫算額金六萬四千二百廿四圓八錢

臨時部

第三款 補給額
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金七千八百四十七圓五十錢
第一項 補給額
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金七千八百四十七圓五十錢
第一目 補給額
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金七千八百四十七圓五十錢
小計 既定豫算額金三千七十一圓
更正豫算額金二万九百十八圓五十八錢
合計 既定豫算額金七万五千八百卅八圓五十八錢
更正豫算額金七万五千百卅八圓五十八錢

文苑

●九十の春光　桂　香

九十の春光照々として長閑な空に棚曳いて居る、須らく一瓢を腰にし輕裝杖を曳ひて郊外を散策す可き時ぞである、併し悲ある身は意の如く任せない、唯枕許の小窓を押して麗かに晴れ渡る春の日の悠々たるを眺むるのみである、強ひて身体を起して氣の向くがまゝに小庭に降り杖を力に五六歩あゆむと何うやら呼吸がハツみ氣息奄々として歩行に堪へない、直ちに部屋に戻つて枕に就くや否や早速華胥の境に入つた而して其の夢が面白い肉体は死んでも必ず靈魂は亡ぶまいと

●社會の罪　春　帆

『錆は錆びても名は錆びぬ、昔忘れぬ落し差し』と小唄の文句を其の儘ではないが僕は何のやうに零落しても家名は汚すまいと決心して來た今日圖らずも終に家名を汚すとゝなつた、是れ誰の罪であらう、勿論自分の罪には相違ないが併し社會も與つて其の罪に坐するだらうと思ふ、とはいふものゝ何の道家名を汚したには相違ない、先祖の墓前で腹十文字に搔き切らうかとうれども奮迅一番將來此の汚名を雪がうかと苦悶懊惱して居る際友人よりの書面が來た『其の汚名は僕が雪いでやる……』と僕は安心した、併し衷心忡々たるものがあつた



佐倉宗吾

（四十三）　眞龍齋貞水講演

さて此捕縛に當りました、七十有余人の總代名主は、三人或は二人、或は四人と、道を變へまして、銘々姿を窶し、竊に江戸表へ上つて參ります、其胸中こそ、思ひ遣られて哀れなる話であります、愈よ江戸へ着いたし、淺草觀音様の寺内に集りましたのが、萬治元年十月十七日でございます、觀音様の御堂の左右の處へ、彼方へ三人、此方へ五人と、追々待合せて、團集りましたから人が七十六人、江戸の人は、觀音様へ御參詣に來て見ますと、異形の扮裝をして居る人が大勢ゐる、田舎の人だから自然眼にも立ちます、併しガヤ／＼云つて居ります容子が、何どなし憂へて居るやうであるから江戸の人は早くも見て　甲「どうも何事だろう　乙「何事だろうね　甲「あの山門の仁王様が欠落でもするんで押へに來たんぢやねえか　乙「馬鹿な事を云ふな　甲「何事かてりや觀音様へあつて來たんだらう　丙「如何だら



う、地震で五重の塔が倒れるんで、五重の塔を押へに來たんぢやねえか　乙「馬鹿だなア此奴ア、詰らねえ事を云ふな　甲「如何だね、觀音様が引越しに成るんで、手傳に來たんちやねえか」くだらぬ事を云つて居る此方は佐倉領の名主方、大慈大悲の觀音様を拜し「一度名主一同の願ひを御聽き採り下し置かれて、佐倉城附六万石、二百六十有余ケ村の百姓が、無事安泰に事の濟みますやうに」と、一生懸命に御願ひを上げるそこで宗五郎を初め、瀧澤村の六郎兵衛、小原村の半十郎、勝田村の重右衛門、千葉觀村の瓦殿なぞが先きに立つて」さて皆様、いよ／＼御頭の數も揃ひましたに依て、是から堀田原の御上屋敷へ参り、御門前にて殿様の御登城を待ち奉り、御駕籠へ縋りませうと」一同ぞろ／＼と出掛けました、一体御門訴と云ふものは、簑笠を着いたしまして、鋤、鍬、馬鍬、鶴嘴、麺棒、牛棒、六尺棒なんてのを携へ、ワイ／＼と云つて御門前へ取詰めて來る、それで何の御屋敷でも騒がしいから、御門を開いて御役人様が「何事なるか、騒がしいッ」と出ると、ウワーッと云つて、飯の上の蠅を追ふやうに逃げる、又御門が締るさ、ワイ／＼と押寄せて來るから、又御門を開いて「何事なるか、騒がしいッ」と云ふと、又逃げる、此内に地位ある人が出て、何事か御門訴の次第を御聽取になると云ふのが先づ普通の御門訴でございます、然る所、宗五郎等の御門訴は、名主總代六名が先立になり、羽織袴を着して、先きの方へ控へて居る、殘の者は、普通の羽織を着しまして、孰れも御門前へ取詰めまして「ハアーッ」と頭を下げ、平身低頭して控へて居る、往來の者が續いて　甲「何事でございませう　乙「エー、どうも觀る所、御領分の百姓か何者かでございませう」と、一人集り二人集り、段々寄つて見て居りますと、其内に愈よ御時刻が參りましたから、堀田上野介御登城と云ふ事に成りまして、御門がキイーッと開くと一同が御駕籠へ「御願の筋これあり」と云つて縋つた、誠に神妙なもので、羽織袴で謹愼をして、願書を奉らんとしてゐる、堀田上野介は、御若いのに御氣象が優れてゐる、尤も御悧恰の方へ優れて居らつしやるなら、誠に有難いが、御疳癪の方へ優れて居らつしやるから、此有様を御覧になつてムラ／＼ッと遊ばして、御供頭を召し、何事なるかと御尋ねになると　供「恐れながら今日、御領分百姓一同より、駕籠訴に及びましてござる　上「不埒な奴ぢや、予が登城に及ばうと云ふ折柄、かゝる無禮を致する者は、一同きり捨ごめ」と仰せられた、そこで御屋敷へ引返しになり、御病氣の御届を遊ばし、一時御登城を御止まりになる、此時戸永六郎兵衛と謂ふ人が罷り出ました

謹告

京城新報

東拓社員の收入

總裁以下の反省を促す●●●●

壹千萬圓の大會社として韓國の拓殖を双肩に荷へる重大責任たる東拓會社は其責任の重大なるだけ名士を網羅せるを以て其收入も大ならざる可らずと前置きを掲げて總裁以下重役及上級者の收入額を報道し來れる通信社あり、之れ會社が特に通信社によりて世に發表したるものなりや否は知らざるも、余輩は此收入額に就て多きに失するの感なくんばあらず、較近在外保護會社の上級役員俸給が比較上高きに失するは甚だ喜ぶべきことに非ず、彼の滿鐵會社の如きも上級役員の俸給が餘りに高きに失するを以て世人は會社の前途に向て少なからず杞憂を抱けり、果せる哉總てが之に匹敵して冗費のみ嵩みて殆ど收拾すべからざるの亂状を呈せるは今尚ほ世人の記憶に新なる所なり余輩は今東拓會社重役及上級役員の收入額を見るに及で彼の世人が滿鐵會社に就て杞憂したると同一の感を起さゞる能はず、現在會社の人員は五十餘人と聞く、其役員の總收入は概して十万餘圓なるべく、其中八萬二千餘圓は總裁以下僅々十二人の占領する所たり、如何に重役なる適材を網羅せりとするも、此上級役員の收入は頗る過大なり、世人は之を評して一將功成萬骨枯ると云ふ、之れ或は會社に對する酷評なるべし現に總裁と統監との收入比例に見るも總裁の收入は比較上過高なり、其他副總裁と副統監、理事と參與官等に比較するも會社側の俸給は多きに過ぐ、元來外務省の如きは年二期の賞與は別として其俸額は諸官衙に比して幾分少額なるを普通とせり、殊に東拓會社の如き現在利益を收むる能はざるのみならず今後四五年間は到底利益を收むる能はざる會社に於て、此點より見るも會社は當分營業の上に臥薪嘗膽の覺悟あるを要す、然るに●●●●重役及上級役員の收入のみにて政府の補助金卅萬圓の三分一を消費するに至りては之を過大と云はずして何と云はん、而して一方に於て驛屯土の引取價格を誤れるが爲に二百萬圓の損失を招きつゝあるに非ずや二百萬圓の損失は八年間の政府補助金を無意味に放擲すると同一なり、俊才を網羅せる會社は今や斯る大失態の渦中に彷徨せるなり、最初四五年間は利益を見る能はざる會社が率先に二百萬圓の巨額を損せんとするときに於て總裁以下僅々十二人の役員に對して政府補助額の殆ど三分の一を與ふるが如きは株主として到底忍ぶ可らざるの事なりとす今に於て總裁以下上級役員にして反省謙讓せざるに於ては株主は何時までも默過する能はざらん、殷鑑既に滿鐵會社にあり今にして悔悟以て收入額を減少するにあらざれば萬事に就て滿鐵失敗の跡を踏むに至るべき也、余輩は此比較的過大なる東拓上級役員の收入額を見て會社の前途に對して寒心せざるを得ず、一事は萬事なり、此一點を見て會社全体の事をトすることを得ればなり、重役諸氏の聰明なる必ずや世の問題とならざる前に之を解決して惡評を防ぐの擧に出でんことを信ずるものなり、

東京電報

▲諸法令の發布 陸軍給與令、滿韓駐剳軍隊給與令、徴兵規則中改正の件本日の官報にて發布さる(三十一日發)

外報一束

▲摩國の新內亂 摩洛哥國首府フエツツより重大なる新報道あり曰く國王ムレイハフヒツドの擁護者等は今回叛亂を起し王位覬覦者に結合するに至れり右騷亂のため同地在留歐洲人等の安全につき頗る憂慮すべきものありと

▲エ將軍の奇說 米國のエヴアンス將軍は日露戰爭の避くべからざるを談つて曰く露國は全力を擧げて艦隊の新造に努め居れば二箇年の後戰端を開くに至るべし故に日米戰爭は起るべきにあらずと

▲バルカン樂觀 セルヴイア皇太子が王位繼承を斷念したると露國が無條件にてボスニア、ヘルツエゴヴイナ併呑に同意せる結果として墺地利政府は從來よりも樂觀を抱けりと

▲攝政王謁見式 本月二日清國攝政王封冊を受けたる第一回の謁見式を文華殿に擧行する旨發表せり但し慶親王は皇族中の長者なるを以て謁見に及はずとなり

▲幣制調査局 清國幣制問題については金銀本位制を執るべきか又は兩弗孰れにすべきかにつき意見區々に分れ今に決定せざるが今回度支部は日本の幣制改革當時の例を引用し幣政調査局を設けて詳細の調査をなすことを上奏し裁可せられたり

▲米國關稅問題 米國に於ける關稅問題は未だ議會に於て進行せざるも其の最高と最低との問題に關し上院の財政委員中には反對の聲高し然れども共和黨の財政方針なれば如何ともする能はざるべく議案通過の際は必ず大激論あるべし

雜報

▲言路開拓上諭 清國都察院の彈劾に由り御史李錫家等を懲罰せしが言責ある諸官朝廷言路を開くの趣旨を體して理亂に鑒み邪說を斥け忠言を上れよと又翰林院侍講與史家西洋通史を進講せるに上意に稱ひ留後進講の學士等書中新政又は憲法に關する緊要條項あらば價密採擇し朕が憲法維新を致すの助けと爲せよと上諭ありたり

●驛屯土問題 日本に於ける輿論●●●●●

▲東拓會社と土地 東拓會社株持分として韓國政府の提供したる土地反別は其

移民などは出來まいよ(大阪朝日)

▲東洋拓殖の一問題 韓國政府より東洋拓殖會社に出資したる一萬千四百町步の田畑は時價三百万圓に足らず會社は莫大の損失を受くるの結果を見る可きを以て株主總會の一問題たるべし(萬朝報)

●三稅施行區域 酒、煙草及び家屋の三稅施行に關する區域は曩きに報導せし如くなるが愈々本日又は二日の官報にて發布せらるゝ筈なり

●漁業出願注意 本一日より施行せらるべき漁業法の願書は實施後にあらざれば効力なきものなるにも拘らず期日以前既に提出せしもの數百通の多きに達し居れる由にて水産局に於ては是等提出者に對し一々書面を發して此旨通知したりと

●紳●士●錄●出●版●の●趣●意●

韓半島の社會的狀態は今尙は混沌たり、社會の舊組織破壞せられて新組織將さに成らんとするの時代なり、所謂破壞と建設との過渡時代なり、故に半島國民も在留外國人も皆此渦中を脫する能はず、從て各個人の信用程度を判別すること容易ならず、之が爲に總ての取引に於て圓滑を缺くの例決して乏しからず、弊社は玆に見る所ありて紳士錄の編纂を企てたり、然るに韓半島全部に亘りて之を調査するには多くの日子を要するを以て當面の急需に應する能はず、玆に於て先づ京城龍山に在住せらるゝ日韓淸英米佛獨其他の紳士全体を擧け豫約方法によりて出版し以て世の急需に應ぜんとす、思ふに京城龍山は目下半島の中心なり、此中心の地に在つて經營の重任に當らるゝ紳士を最初に紹介するは將さに當を得たるものなりと信す、而して揭載する紳士の部類は政治家軍人官公吏商業家工業家農業家醫師辯護士教育家宗教家新聞記者銀行會社教會寺院俱樂部組合等にして社會の各階級を網羅して漏す所なし、之を以て本書は公私の實務に執掌せらるゝ諸君には欠く可らざる要書なりと信す、庶幾くは續々豫約御申込みあらん事を切望す、

明治四十二年三月

京城新報社

收入を標準として割當てを計算したるものなるも收入米の時價算定法は大に其產地に於ける時價と相違ありて爲めに現金拂込者間にも非難の聲あれば注意す可き問題也と(時事新報)

▲驛屯土の大失敗 東洋拓殖會社が二百萬圓の損失をしたといふ謂れを聞いて見ると韓政府の持株三百万圓の拂込に驛屯土一万町步を以てしたのがそもそも大失敗一體韓國の地價はいかに良田でも一町步十圓が十五圓が相場だ、夫にこれでは一反步三十圓に當つてゐる誰の罪でもなく創立委員の責任で總會ではいづれ一問題だらう、それ許りか驛屯土といふものが一所に纏まつてゐるのではない彼處に二三町步、此處に四五町步、全羅にチラバツてゐる東拓は何う之を扱ふか知らんが之ではとても

●東拓の貸付開始 東洋拓殖會社の貸付規程は目下統監府に認可申請中なるが近日許可せらるべきに付夫れと同時に貸付の開始を爲すべき筈にて多分本月の上旬頃なるべしと

●統監府の移轉內定 統監府は龍山軍司令部の建物に移轉すべく內定したる由なるが統監邸は軍司令官の官舍として定められたる建物なりといふ

●郡守候補者と發表 三十日開會したる地方官資格審査委員會に於て郡守候補者六名の內五名を其適任者と認めたる由なれば不日之が發表を見べしと

●地方官と資格審査 從來觀察使の推薦に係る郡守候補者は一部に對し一人の割合なりしが之は人材皆用上不適當なるに依り爾今は觀察使に於て適當と認むる者は人數を限らず推薦せしむることゝしたりと

●渡日女官の日本觀 謝恩使閔宮相の一行と共に渡日したる趙夫人、千尙宮、高尙宮等は人々に向つて言を極めて日本の文物制度乃至人智の進步を賞揚しつゝありと

●道書記官會議と準備 內部は不日各道書記官會議を開會する筈にて目下之れが準備として各道書記官より會議材料を提供せしめつゝありと

●實業獎勵と李俊鎔 永宣君李俊鎔氏は韓國に於ける實業獎勵の目的を以て自己が所有に係る庄土を典し典當組合所を設立すべしと京城通信は報せり

●共進會と農商工部 明年三月十六日より六月十三日まで福岡市に於て開催せらるべき九州沖縄聯合共進會及同年三月十一日より五月九日まで名古屋に於て開催せらるべき關西府縣聯合共進會に對し農商工部は韓國の實況を日本に周知せしむべき目的を以て韓全國の模型又は地圖を作りて經濟、狀態、地勢、氣象、人口、日本人の韓國に於ける諸般の狀態を數百枚の表に仕上げて之れを模型又は地圖の周圍に揭げんとて目下準備中なり

●製紙會社の創設說 植山、閔泳綺、李址鎔等の諸氏は今回靑坡に於て資本金五萬圓の製紙會社を設立すべき筈にて目下準備中なりと云ふ

●開國會創設準備 京城西部雲松居金泰鎭及同志者數十名は民智を開發し文明の基礎を發展すること云々の大々的目的の下に開國會なるものを組織する準備中なりと

●驛屯土の引繼 韓國政府より拓殖會社に出資したる驛屯土現實の引繼ぎは先般來會社重役以下各地に出張調査を終へ全部今明日中には歸社するを以て此の調査に基き場所を決定して引繼きの手續を爲す由なるが第一着に引繼ぐは一萬一千四百町步の四分の一(第一回拂込みに相當す)にして殘り四分の三即ち韓政府より賃貸する部分は漸次に引繼ぐ筈也と

●東拓會社披露宴 東洋拓殖株式會社は既報の如く四月三日景福宮內慶會樓に於て披露宴を開催するに付內外人千餘名に案內狀を發したるが當日の催しに關し聞く處によれば△會場入口は光化門より壁に沿ひて左に廻りたる所の迎秋門にして△門內に車馬供待場あり受付にて場內圖と共に徽章を渡す△重役は受付けの前面にて來賓を優待し此の處に近き小橋を渡りたる松原に種々趣向あり休憩場餘興等ありて來賓は逍遙後慶會樓下の休憩場に入るべく△立食は樓上にて三時三十分開始さる△今回は會社の披露會にして他の園遊會とは性質を異にし隨て婦人には一切案內狀を發せざりしと

●根據地漁業監督者 朝鮮海水産組合代議員會に於て各地に漁業監督者なるものを選定するに決し木浦支部に於ては突山郡巨文島小山光正莞島郡秋子島の山本恒祐の二氏を選定し今回組合本部に稟議したりと

●上陸部隊輸送終了 本月廿三日より開始せる駐屯軍第六師團並に臨時派遣隊第廿七聯隊の新兵交代の輸送は愈々一昨日の釜山上陸部隊を終末として全部輸送を結了せりと云ふ

●仁川徴兵適齡者 仁川徴兵適齡者は本日より龍山步兵第十三聯隊第二大隊に於て施行せらるゝ筈にて尙本日より團体にて龍山に向ふ筈なりしも都合上各自隨意に指定せられたる日に出向することに改定せりと

●韓人向商品の賣行 群山に於ては日韓人の購買力薄く商人は何れも之れを頭痛に病みつゝあるが而も韓人向雜貨は販路次第に廣くなり近年に至りては韓人も日本人向雜貨を新たに需用する趣きあり今後日本商人にして此等新品の販路開拓に從事せば頗る分好望ならんと云ふ

●中學校生徒の來京 島根縣松江市尋常中學校教員生徒三十六名は一昨夜釜山より來京昨日當地日本人商業會議所に至り當地の經濟事情及び商業狀態等を調査し終つて景福宮を觀覽し夕刻より島根縣人會の招待會に臨みしが本朝は平壤方面に向け出發す

●農林學校と入學生 本日より入學試驗を行ふ筈なる農林學校の入學希望者は其の申込者非常の盛況にて昨日迄に約七百名なる由なるが採用人員は八十名なりと

●仁川小學校卒業者 仁川高等小學校卒業生五十七名の今後の方針に就いて聞くに男生三十五名の內中學校に入學するもの十五商業學校工業學校農學校に入るもの各一名にして殘餘十七名は直に實業に就くべしと而して又女生徒二十二名の內高等女學校に入るもの十名東京女子職業學校及師範學校に入るもの各一名宛にして直に家事に就くものは十名なりと

●小學幼稚園入學式 仁川尋常高等小學校及び仁川紀念幼稚園は本日午前十一時又同地高等女學校は午前十時入學式を擧行する筈なり

●度支部職員の晩餐會 共同倉庫會社なる鹽田、石井新舊兩支配人の送迎及び鹽田慶尙農工銀行副支配人歡迎のため度支部理財局及び韓國側金融事務に關係ある人は昨夜淸華亭に晩餐會を催す

●敍任辭令 咸鏡北道地方經濟事情調査囑托 中井喜太郎 解囑托 臨時報告書編纂事務囑托 服部暢

公人私人

▲池田十三郎(通信管理局長) 一昨夜歸任

▲香坂法務院長 司法官會議出席並に新刑法施行後に於ける司法狀況視察の爲め來る七八日頃東上する由

▲三宅法務院評定官 上京中一昨夜歸任

▲村上紋四郎(愛媛縣會議員) 三十日入京山本旅館

▲齋藤基郎(同縣事務官補) 同上

▲西村房太郎(松江中學校長) 同不知火旅館

▲塚本信治(統監府特許局審査官) 同上

▲佐久間貫一郎(佛國金鑛技師) 同上

▲竹田茂次衛門(長崎縣水產課員) 三十日釜山に向ふ

▲鈴木小太郎(同縣技師) 同上

▲稅所篤之(陸軍少將) 同平壤に向ふ

▲服部重直(陸軍工兵中佐) 同上

▲松田傳作(公州財務監督局整理課長) 三十日歸任

▲大窪七之丞(鹿兒島水產組合長) 昨日仁川に向ふ

▲松崎彌一(同縣水產組合理事) 同上

近事片々

▲漢城の富豪閔泳徽氏が上海に移住すると久しき噂也此頃亦此說あり果して事實乎

▲渠も種々計畫して政界に馳驅せんとしたるも事志と齟齬したる爲め終に上海落乎

▲渠は昔清國黨の大立物爲に支那には知己も多からん之が爲に淸國移住の念絕へず

▲回顧すれば閔妃時代の渠は其勢力强大實に飛ぶ鳥も落せりき噫人事總て夢の如し

▲併し政治上の勢力衰へたるも其時に蓄へ得たる財力は今や漢城に肩を並ぶ者なし

▲日淸、日露戰役露國の勢力樹立せる頃は今の首相李完用等とも親善なりき現今は如何や

▲昨日の淵は今日の瀨と變るは浮世の常なるも漢城政客の有爲轉變こそ實に稀有也

▲一時東京にて添削男となれる一進會長李容九今何事をなしつゝあるか更に音なし

▲伊藤公は李容九の歸韓を引止めたりとか何とか種々の噂さあるも結局は[illegible]入學

▲李容九の歸韓を引止めたる事が實ならば伊公も隨分れ人好し也片々等は苦笑のみ

▲李容九歸韓して一進會を煽動したり迚何程の事をなさむ寧ろ隨意に任すを可とす

▲帝國議會閉會して政黨員等の氣弛む新政黨の組織も本秋迄は先づ其儘に打預り乎

▲桂首相一息ホツトせしならんも是から桂侯の御手際也如何なる快腕を揮ふべき

▲議會の面倒を避けたりと噂せられし伊藤公も大磯に歸らる是からが政府の一仕事

▲元老會議も弗々始らん對韓政策も亦其議に上るべし多少の局面展開はあるべき也

▲統監更迭說も亦始るべし後任者の噂も亦傳へらるべし偖其最後は何となるべきや

▲如何に議會は首尾能く切抜けたりとも統監政治は此儘現狀を維持する能はざらん

▲七十五歲の老婆四十二の男を夫に持ちて懷妊し本月が初產也と此老婆は讃岐國也

▲此老婆の如きは稀有の豪物之には道が伊藤公でも田中伯でも迚も及ばざるべし

●仁川民團會計檢査 仁川民團一月より三月に至るまでの會計檢査[illegible]

●署員の相互救濟會 京畿道警務部に於ては今般職員間相互救濟[illegible]つゝありと云ふ

●郡守主事不日任命 [illegible]

●大分縣の韓海漁業 大分縣水産試驗場に於ては本年度に於て主[illegible]しめ且水産獎勵費下付規定を設け、大に當業者を獎勵し同縣下各郡より漁業者各一名[illegible]

●天氣豫報(自卅一日午後六時至一日午後六時) [illegible]

雜報

●猛虎賊を喰ふ

奇なる哉天刑 妙なる哉應報

去廿一日八名の賊徒高陽郡德鉢面香洞居住鄭敬七及び新栗洞金都事に闖入せりとの報を得たる同地駐在巡査松林嘯右衛門氏は巡査松本純一、韓巡査三名と共に早速同地に到り取調べ見るに被害者は仁觀面院前洞裝千一二男三元(十八)にて同夜二時賊徒の爲め拉せられたりと於是乎松林巡査の一行は尙ほ取調べを爲せるに被害者三元は賊の爲め伽耶山中に在りて賊は之を人質として三元の父裝より金を强索せんとするものとの見込を立てたるに果せる哉賊より裝千一に金二百兩を携へ德鉢面と陝川郡との境界地點に來り金を渡さば人質を還さんとの文書を齎せるを探知し直ちに其方面に馳向ひたるに途中人質三元は山中に打倒れ人事不省となり居る旨報知に接したるを以て現場に急行せしに果して三元は半死半生の體にありければ一行は先づ被害者に應急手當を施して蘇生せしめさて同人の語る所を聞けば八名の賊は三元の父裝某が人質取返しの爲賊の指示したる地點に來ると云ふ其時刻に人質の三元を引連れ山を立出でんとしたる途中怪しき叫聲起ると同時にケタゝましき物凄き聲して忽ちに顯れたるは猛虎一頭暗にも爛々たる眼を怒らし『おのれ良民を害する賊徒共山中には國法の及ばざるものと思ふが愚なり天の刑罰思知らせくれん』と云つた譯にあらざるも忽ち猛虎は賊徒のうち一名を噛殺しむしや〳〵と其肉を食ふたり他の賊徒は驚き慌てゝ四方へ逃散りたり猛虎は賊の肉を喰ひ盡して後『よい敵討をしてやつた』と云はぬ計りにノサリ〳〵と藪に姿を隱したり始終の樣子を倒れながら見て居たりし三元は虎口を遁れたるも賊の苛責に身体弱り且つ碌々食事もせざりし處よりイタク疲勞しソコに打倒れ居たるを松林巡査隊に發見せられ危うき命を全ふしたりとは近頃の珍聞也

●饂飩屋の主婦(三)

▲老いて益々旺なり ▲孫のやうないろ男

五十幾歳の老軀を提げて自から籠絡ケ原の陣頭に打つて出た媼さんの武者振りはそれは〳〵勇ましいものであつた先づ髮の毛の白きを染め口紅の紅きを用ひた處などはどうしても古の齋藤實盛とでも云ひたげな風情であつたが雲霞の如く寄せ來る敵軍を引き寄せて物の數ともせず流石は老功の太刀筋亂れず一上一下と秘術を盡して戰ふ中敵は見る〳〵打ち伏せられて捕虜となりしもの五人ばかり何づれも血氣の若武者なれば毎晚十二時の鐘を合圖に饂飩屋指して集り來る鞘當ての珍談珍聞もあるやうなれど先づは此の位ひにして止めて置く(終)

[illegible]川氏[illegible]一月より三月に至るまでの會計檢査は昨年より青木、昭田、加藤の三會計委員の手にて勵行せられ居たるが昨[illegible]を以て辭任したる由

京畿道警務部に於ては今般職員間相互救濟の目的を以て[illegible]間に於て疾病其他の凶事ある時は相醵金してこれを救濟することとし三月より實施し

●竊盜犯人の逮捕

昨日檢事局送り

竊盜犯韓人孫昌俊(三八)は昨廿一日西署盤石坊里門洞百六十二統二戶の自宅に於て逮捕せられ即日京城地方裁判所檢事局に送致せられたるが今同人の白狀したる處を聞くに此奴は昨年陰曆十一月二十九日午后十二時頃南部洛洞崔召史方に於て金指環一個を竊取したるを手始めとして同十二月下旬日沒頃御成町百三十八篠部竹次郎方店頭の女肩掛一枚代價九圓八十五錢同じく十二月二十三日頃本町七丁目橋詰かね方店頭の女帶一筋代價二圓同じく廿九日午後十二時頃本町一丁目平井藤造方にて首巻六筋代金二十六圓一月一日午前一時永樂町三丁目田中藤平方門口に立掛けありし自轉車一輛代價五十圓一月十二日午前一時頃明治町一丁目吉川吉松方にて純金製平打指環一個代價二十三圓一月二十日午後八時頃鐘路三昌商會にて古銅色有紋緞十九尺外一点代價二十七圓二十錢同日明治町三丁目刀劍商中尾嘉平方にてピストル一挺代價七圓を竊取したる外都合二百余圓の竊盜を働きたる者にして贓物は殆んど全部發見せられ夫れ〳〵被害者に對し假下渡しをなしたりといふ

●畑覺太郎の公判

仁川敷島遊廓第一高砂樓二見の色香に迷ひ主家のダイナマイトを竊取して遊興に耽り居たるを仁川署刑事に看破られ數日前捕縛せられたる大分縣生れの畑覺太郎(三十)の公判は一昨日仁川理事廳にて開かれたるが結局懲役四ケ月に處せられたり

●燈臺下暗らし

數日前農商工部山崎某方の硝子窓を破壞して留守宅に侵入し金子十圓餘と外に物品數點を竊取し去りたる者ありとて其筋に屆け出でたるが昨日に至りて犯人は同官舍の給仕某なりし事發覺したる由なるがさても燈臺下暗らしとは這般事をいふなるべし

●郡守主事不日任命

[illegible]學部と協議の上不日之れを任命し地方教育の刷新を期すべしと

●新町の檢黴結果

一昨日の檢黴に於て修繕を要すべく驅黴院ドックに收容せられたる新町艦隊の戰鬪艦は京城軍港所屬花子第一支店紅梅第一春江大樹相生月下喜蝶南山初音及常盤の七隻なりと

●ドロン藝妓のお灸 本月上旬頃釜山特別鄕の新玉樓を飛び出した玉作姐さんは其後京城へ落ち延び某處に潛伏し居る處を追手に見付けられて昨日南部署に引張られた

●第一敷島樓の新妓 仁川敷島遊廓第一敷島樓より和歌山縣生れの福井とも(三十)は巴、大坂生れの坂本よし(二二)は咲勇、兵庫縣生れの川原とら(二二)は春子、同魚谷たか(二二)は小蝶と呼びて再昨夜より現はる

●迷ひ子 仁川京町派出所に一昨日午前迷ひ込み來りし港春男(六)と稱する迷ひ子は昨日實母チヨノに引き取らる

●猩紅熱患者の死去 仁川寺町二丁目居住佐賀縣佐賀郡八本村魚商谷川市太郎(三十)は猩紅熱に罹り一昨日午前九時過ぎ死亡したるに就き仁川警察署にて嚴重なる消毒を行ひたる後屍体を火葬に附したり

●川柳 (言わけ) 八九庵

手か二本外ないからと言譯し
言譯がきらひでなど〳〵言譯し
言譯を宿六戶棚で聞いて居る
宿六は言譯の尻にしかれて居
事毎にいひ譯をするづるい奴
大早言譯ほどの雨がふり
言譯が出來であたま一寸かき
言譯がつまつて欠伸をきり
言譯に實は實はを多くいれ
遲刊の言譯初號はきつい事
言譯のうまさは見當違へてし
言譯をとつちめてゆく差配哉
言譯を一通り聞きさてそこで
答辯……言譯……政府員
統監は言譯までに政治をし

●酌婦の身體檢査 仁川病院にては一昨日市街に散在せる酌婦及び猫島の酌婦の身体檢査を勵行したり

●簿記學校の英學部 柳澤鹿之助氏主宰に依る同校は創立以來日韓人の入學者非常に增加して益々盛大に赴きつゝあるが尙ほ近々英學部を開始し是又速成を旨として教授すべしといふ

●蝶々の開業 過日本町座火災の際類燒して久しく休業中なりし蝶々は今度赤門通りにて明二日より開業し會席仕出しは勿論なるが御手輕にて例の主人の自慢なる料理を差上る由でさぞかし人氣を得るであらふ

●朝顏種の配布 長野縣下高井郡延德村大限朝顏園に於ては愛艶家のため優等朝顏種百廿種を混合して一袋となしこれに朝顏栽培法を添へ實費郵券二十五錢にて希望者に配布送達すべしといふ

大分縣水產試驗場に於ては本年度に於て[illegible]水產講習所屬豐國丸飛龍丸の二隻に志望者を乘り組ませ韓海漁業の調査視察をなさ[illegible]業者を獎勵し同縣下各郡より漁業者各一名[illegible]査に努めしめ居れりといふ

●第五回 長唄會漫評

去る廿九日夜巴城館に於て開催せられたる第五回長唄嗜好會例會が空前の盛會なりしことは本紙前號所報の通なるが今左に簡單なる素人評を試みんに番組第一●●不動●●は唄松本政子三味線藤本菊代子にて此兩子が例會毎に著しき進歩を示すは聽か聽衆一同を驚かしたり第二●●蓬萊●●は唄大內、鹽澤の兩子三味線芳村師匠にて面白く聞かれたり第三●●勸進帳●●は唄朧月、春野二氏三味線師匠及和田姉妹二子にて名にし負ふ大物の事なれば朧月春野二氏の出來工合如何わらんかと半ば樂みと半ば心配とを以て聽き初めたる程ありしに之は又上乘の出來にて殊に「ついに泣かぬ辨慶の……」は妙味得も言はれぬ程なりし第四新曲●●富の源●●は唄鹽澤、岡田大內の三子三味線師匠及び和田姉妹二子にて唄手が僅かの日數にて此新曲を良くも面白く唄ひこなせる程に腹に入れたるものなりとは聽者の評なりき出來は何れ劣らぬ花わやめ「砂糖作るなら孫から作れ砂糖すんだら孫かぶれヤートセー〳〵」のあたり最も愉快に聽かされたり三子富夜の成効に就て芳村師匠の鼻も自然高かるべし第五●●鞍馬●●唄静波氏三味線師匠及和田すゑ子にて出來は静波氏自身が一週間速成なりと名乘り上げられしにも不拘一中節の地を有せらるることゝて唄振り中々に巡く某名人のたかげを止められしは嬉しかりし第六●●綱の館●●は唄大島令孃三味線師匠にて孃の唄振りがいつもながら高尙にて殊に聲の抑揚節廻しに一種他の眞似得られざる妙所あるは評者の認むるところ也第七●●俄獅子●●は唄岡本みね子三味線和田すゑ子中澤なら枝子にて唄の節に時々濟元らしきところありたれども聲の奇麗なるため難なく聞かれたり第八●●吉原雀●●唄芳村榮十郎三味線芳村師匠にて何しろ九代目の線にて榮十郎が唄ふるなればこそ韓國未曾有にて評者は只恍惚れて評言を挾むべきすきを發見せざりし一体に第五回例會の出來は上々にて殊に新進諸子の進歩の程は末賴母しとも賴母し尙ほ餘興竹村氏のバイオリン濟澤氏の琴八段の合奏は至極奥床かしく聞かれたり(一記者)

●韓語獨習

日語 韓語

鷄は多いでせう クーウン、マンカエツソ
ハイ、田舍に行くと居ります ニエー、シーグルノイ、カーヤー、イツチヨ
鷄卵は、ありますか キョーラ、ニ、イツカエツソ
有りますけれども イツチマースン、ピ
高價いでしよう ヒョツピーカー、オ
豹皮が、ありませんか ツサカエツソ
有りますけれども イツサト、オヌルラ
今日は持て來ませぬでした ンアン、イカーチヨー、ワツソ

●演藝

壽座本日の替狂言は藝題一番目寒紅梅二番目喜劇玉手箱全八幕にして其重なる役割は左の如し

村松啓介、花野春介(西)吉田幸一、杉山醫學士(池田)母さり子、駒吉(稻葉)金剛源十郎、天野忠雄(日東)妻吉、花子(上田)檢事橋本貫行、飛鳥井伯爵(三輪)



◀平民文庫▶

▲在神田組のエスエイチ君に申す一浮一沈の世の中なりとは云へ君が山鐵にて敏腕の小事務家であるとの好評を得た時代と目下の境遇とは比較して僕等は眞に同情の涙禁ずる事が出來ぬ▲壽町の琴吹とか云ふ待合は客に向つて寄附帳振り回し建築費を强請す行つた客こそ實に迷惑です(寶地生)▲元大連や旅順に居た山內と云ふ惡性無惜の獸醫師が當朝鮮の內部とかに勤め居る由住所御承知の御方は御知らせ下されよ(新米關東被害人)▲廿八日の晚の事だ飲醉の僕は月を頂いて新町へと散歩した歸りの途大樹屋の前で一寸立止まつて居ると一人の男と一人の女が何か、ヒソ〳〵話す女は男に『れ歸へんなさいよ』と羽織の襟を直してやつたらしい女は內へ入る男は又後から跟いて結局二階に上がつたらしい僕は思はず登樓したくなつた(涎小僧)▲近頃近所の『ウワサ』には旭町一丁目の大師堂では此間內地から蛸坊主が歸りて來た故滅茶〳〵留守居の坊さんは放り出れる鳥目の婆さん天下太平で蛸坊さんと下の溫突でチヽクリ合て居るとは近所のウワサを聞いた其儘(きたむら)▲僕は此頃所々で丸い頭の人達や寺院の事で種々な噂を聞いて居るが其人達に於て顧る所なくば僕も太平洞あの剃刀を拭ふ布片(古手拭)を新らしい人と同一樣々事實を攻擊するぞ(旭町みの字)▲西小門外鐵道踏切の傍の理髮床の大將あの取替へろよ餘り不潔じやア無いかいチツト衞生に注意せい(剃刀玉)▲西小門通り會計檢査局の眞向ふ●共路面かも大道の中央に大きな材木を並べて大工が仕事をして居るが大韓國では通行の坊害を爲しても差支は無いのかしら殊に夜るは甚だ危險だけれど(化魔腕怪)▲二十八日の京城新報三面にある粹界小言は面白い僕はアー謂ふ文句が大好きだウマイ〳〵(寸鐵生)▲ヨボ巡査が此頃日本人に對して馬鹿に威張つて來たせ●●保護國の木葉役人の癖に生意氣な(官尺小僧)

本日午前六時韓國氣象概況 無限滿洲附近に下降し南風吹一般に晴天也

제72호 1909. 4. 1.

●新聞料 一ヶ月金四十錢 三ヶ月 六ヶ月 一ヶ年
●廣告料 五號活字十九字詰一行 一回四十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新報社 京城西署西小門通 電話六六三番